

敵、米國の若者は
 十八才で壯丁となる
 敵、米國の大學は
 とうの昔に姿を消した
 敵、米國の工員は
 その三分の一が女である
 敵、米國の軍隊には
 女も参加してゐる

—この現實をよく視ることだ—

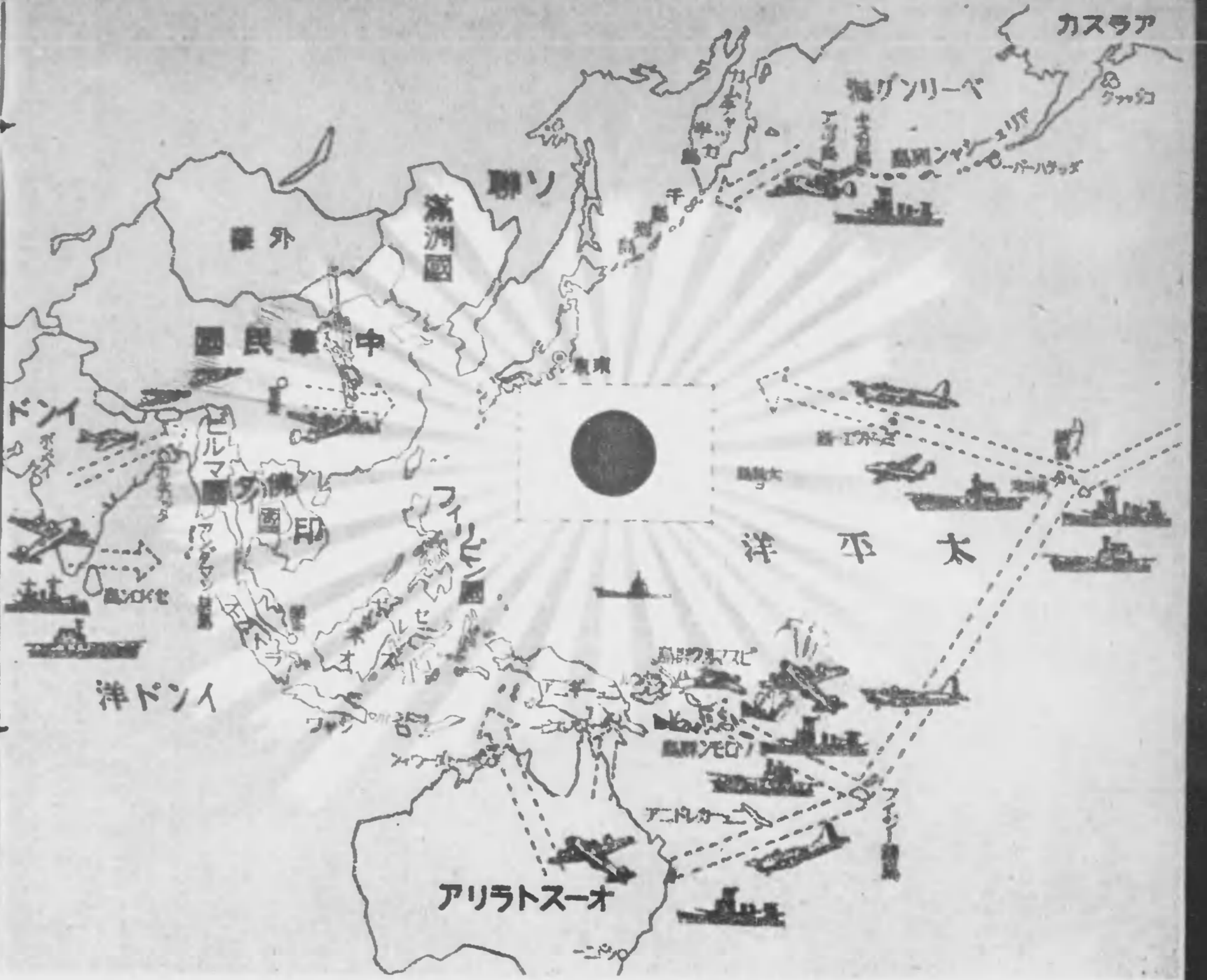
断乎と撃たん敵の反攻

「時の立札」は他へ轉載との他に御利用下さい

敵機を誘導すべく、新島
 地に猛進のわが高射砲隊
 ニューギニア戦線
 撮影 同盟通信社



攻反の敵した撃と乎漸



一、対日反攻計画
 英首相チャーチルは去る八月、シシリーの攻防戦に勝利し、カナタのケベックに飛び、ルーズベルトと最後の世界戦争相地方策について協議し、あつた。會議はイタリヤ陣仗問題も含め、長時日に行つたが、九月半は歸英したチャーチルは二十一日の議會において、対日戦について次のやうに述べてゐる。
 『日本に對する戦争を激化するために、インドに東南アジア總司令部が設立された。總司令官マウントバッテン提督は近くインドに赴任するであらう』
 また、ルーズベルトは九月十七日、政府を議會に送つて對日戦について次のやうに述べてゐる。即ち
 『日本は千島列島からソロン群島に亘る廣大な戦線に依然として居る地を占めてをり、この防衛線を突破するには、われわれは數ヶ所での連続的な攻撃を加へ続けなければならぬ』
 と述べ、さらに
 『日本の国力は文字通り完全に消耗し盡されぬ限り決して崩壊しないであらう。これ以外に何等かの方法があるかの如く考へようとするのは最も馬鹿げてゐる』
 と述べて、對日反攻戦が今後も今まで同様、激烈な犠牲の上に立つて進行されるべきを明らかにしてゐる。西太平洋方面については言及を避けてゐるが、この點チャーチルは『既に太平洋の各方面から相當大規模に攻勢は開始されてゐる。米國の主力はこの大洋に傾注されてをり、しかもその攻勢の主なる重鎮はマヤカーナが大規模攻勢を指揮しつゝあるソロン、ニューギニア方面に置かれてゐる』と述べてゐる。さうして、チャーチルの言及しなかつたビルマ作戦について、ルーズベルトは『ビルマにおきては戦術的持久戦の時既に終り、攻勢に轉じた』と述べて、英軍がこの方面で本格的反攻作戦を開始したことを言明してゐる。この他、敵側の諸情勢を綜合してゐるに、敵は今後の對日戦について、だいたい次のやうに企圖してゐるのではないかと、一つの判断が下される。即ち英軍はインド、セイロンを作戦根據地としてビルマ軍を主目標とし、特にインド洋の海洋の特性を利用して、マライ、その他南方地区に對する毒圏作戦を企圖し、米軍は南洋を作戦根據地として、現に進行しつゝあるニューギニア、ソロン群島に全力を集中し、比島の軍を當面の目標としてゐるのではないかと、これと同時に、わが本土に對する空襲もとゞく行ふであらうと、かやうに考へられるのである。

二、反攻實施の時期

さて、かやうな對日一大反攻作戦といつ頃から始めるであらう。最近においても必勝を期し得る戦を準備する。軍需省設置はその一つの手段である。
 また、廣大なる大東亞の各地域を守る軍隊としては、そこを基礎として死守する。
 軍以外、一般國民としては、軍需生産、食糧の確保等、戦力の増進をさらに強化する一方、國土防衛をいよゝ強化して、戦力の保持増強にあらゆる手段方法を講ずる等、一切を戦勝獲得に集中する。
 もう今は若いも若きも、男も女もない。一度すべて戦線配置について、來れば來れで一時時宗の決意を以て、吾らは新らんの擧へで敵を徹底的に撃滅し、以て光輝ある神州日本を守らなければならぬ。東大時局となつたのである。 陸軍省 輿論部

三、反攻作戦實施の要領

我が國は今後その強化に一新勢力を注ぐものと思はれる。今も時時敵艦が占領地内に飛來してゐる。次に南太平洋方面の敵艦をみるに、南洋、ソロン方面の敵艦は一千餘隻、その後方、南洋、ニューギニアにも同数のものが配置され、敵はこの航空機の消滅を企圖して、日本の航空勢力を衰弱することに努めてゐる。我々が海軍將兵に華を印されても、積々新手を補充して進軍して來てゐる有様である。ソロン、南洋方面の敵艦上兵力は十數百隻、海上艦隊勢力は明らかではないが、主力艦十數隻を有する米海軍の主力であることは疑ひない。
 その他、ハワイ方面にも飛行機一千機、航空母艦數隻のもの、アラスカ、アリューシャン方面に飛行機數百、陸上軍數萬のものがある。
 これを大東亞戦争開始當時に比べてみるに、いはゆるA・B・C・D對日包圍陣當時に比して、航空戦力は質量ともに格段の増強を遂げてゐるといふことが出来る。

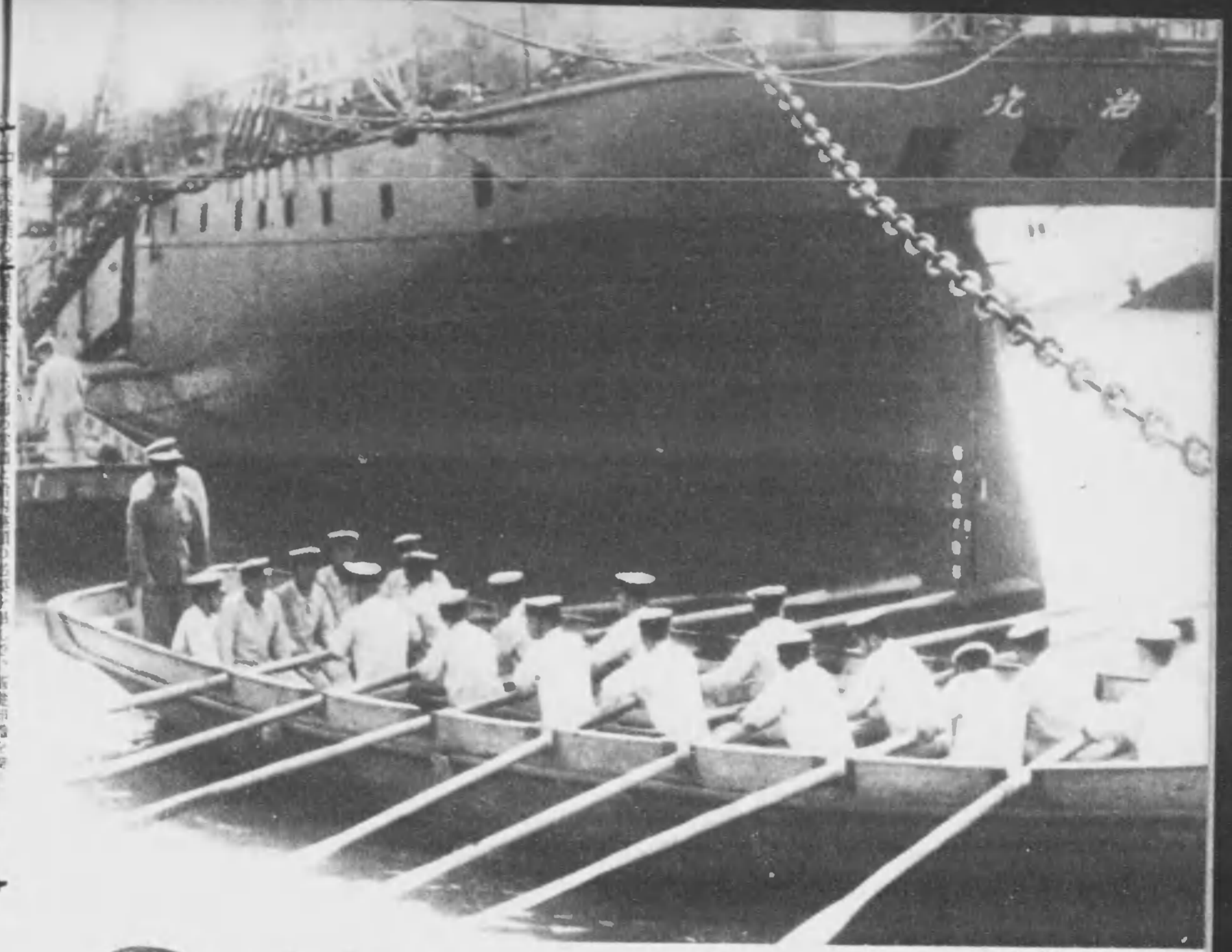
四、敵の兵力配置状態

以上、敵の對日反攻なるものの概観を具體的に考へてみた。これは勿論、一つの想像であり例證であつて、この通りになつて實現するかどうかは、今後の戦局の進展に俟たなければならぬ。しかし今はその實現が如何なる程度のものであらうかに對し想像を逞しうしてゐるべき時期ではない。われわれとしては、最悪の組合を想定し、これに對する徹底した覚悟、固太い士氣、萬策を盡して、出来る限りの戦備の充實を要するといふこと以外に對策はない。
 軍としては、今日の戦局に決定的影響を及ぼしてゐる航空戦力の飛躍的増強に向つて全力を集中する。質において敵に優ると共に、今日まで量においては敵に劣るは敵し難いといつてつた觀念を打破し

我が國は今後その強化に一新勢力を注ぐものと思はれる。今も時時敵艦が占領地内に飛來してゐる。次に南太平洋方面の敵艦をみるに、南洋、ソロン方面の敵艦は一千餘隻、その後方、南洋、ニューギニアにも同数のものが配置され、敵はこの航空機の消滅を企圖して、日本の航空勢力を衰弱することに努めてゐる。我々が海軍將兵に華を印されても、積々新手を補充して進軍して來てゐる有様である。ソロン、南洋方面の敵艦上兵力は十數百隻、海上艦隊勢力は明らかではないが、主力艦十數隻を有する米海軍の主力であることは疑ひない。
 その他、ハワイ方面にも飛行機一千機、航空母艦數隻のもの、アラスカ、アリューシャン方面に飛行機數百、陸上軍數萬のものがある。
 これを大東亞戦争開始當時に比べてみるに、いはゆるA・B・C・D對日包圍陣當時に比して、航空戦力は質量ともに格段の増強を遂げてゐるといふことが出来る。



かが問題になるが、これは既に南太平洋方面では開始されてゐるのである。しかしビルマその他、全面的には、この情勢から推察したならば、早ければ秋の暮れ、または年末、年始と一舉考へられる。さうしてまず、反攻力を強化し、連続不斷的攻勢を實施することであらうとみられるのである。米國當局者も、今年年は米國民として未だかつて見たことのない苦難を嘗めなければならぬ時期であると國民の犠牲を要求し、果敢の空気を戒めてゐるところからみても、敵は従来の長期消耗戦の不利なことを悟り、最近短期決戦主義を考へて來てゐることが分る。
 三、反攻作戦實施の要領
 しかばその進攻作戦はいかなる方法によるかを更に考へてみるに、これは大體において、かのシシリー、またはアッソ島攻撃戦のやうに、まづ多數の航空機を以て各島嶼の無抵抗獨立化を圖り、それに空軍と艦隊射撃の火力投擲の下に、多數の上陸用舟艇を以てする上陸作戦、しかもそれは勢めて我が國の艦隊、または手薄の地點を狙つて、これに上陸地點を求め、戦艦、グライダー等を利用して、その兵力の強化を圖り、さらに輸送船隻による兵力、殊に機械化兵力の強化を圖る等、科學技術と生産量とを唯一の必勝信念の根拠として頼むものとみられる。
 以上述べた我が國が第一線に對する敵の攻勢作戦と共に、後方のわが日本本土に對する空襲も同時に企圖するものと考へられるのである。
 四、敵の兵力配置状態
 次ぎに、しからは各方面の敵兵力配置如何と考へると、勿論これは、はつきりしたことはないが、次のやうにいひ得るであらう。
 まづビルマ方面に對する敵であるが、インドとビルマとの國境には英軍十萬餘人以上と思はれる地上部隊が我が第一線と對峙してゐる。飛行機は全印に米英を合し總計一千機位であらう。またセイロンを中心とするイギリスの海上勢力として、戦艦、航空母艦を合し數隻、その他の艦艇三、四十隻位のものも配置されてゐる。この海上兵力は、今度イタリヤ海軍の敵艦への駆逐りによつて、イギリス地中海艦隊主力のインド洋艦隊も近い將來行ふものと考へなければならぬ。
 重慶支那軍は雲南省境に約一、三十萬餘人のものが、我が國境に對してゐる。重慶側空軍は我が航空部隊の編成不斷的の攻撃により、その戦力は著るしく低下せしめられてゐるのであるが、



へ海の戦決 く高水營の尉少軍海

東京高等
商船學校

「擲舟意」——短艇帆走の
實習へ備き出す海の丈夫に
は、胸が折れてもやまざる
不撓の闘志が燃えてゐる



生徒集會所には、短艇競争に勝つたといつては凱歌があ
がる。上級下級生の切實な生活は寮生活の中に行はれる



南に北に、星と羅針の標章は
輝く。熾然たる日章旗の下、
越中島出の商船士官は征く

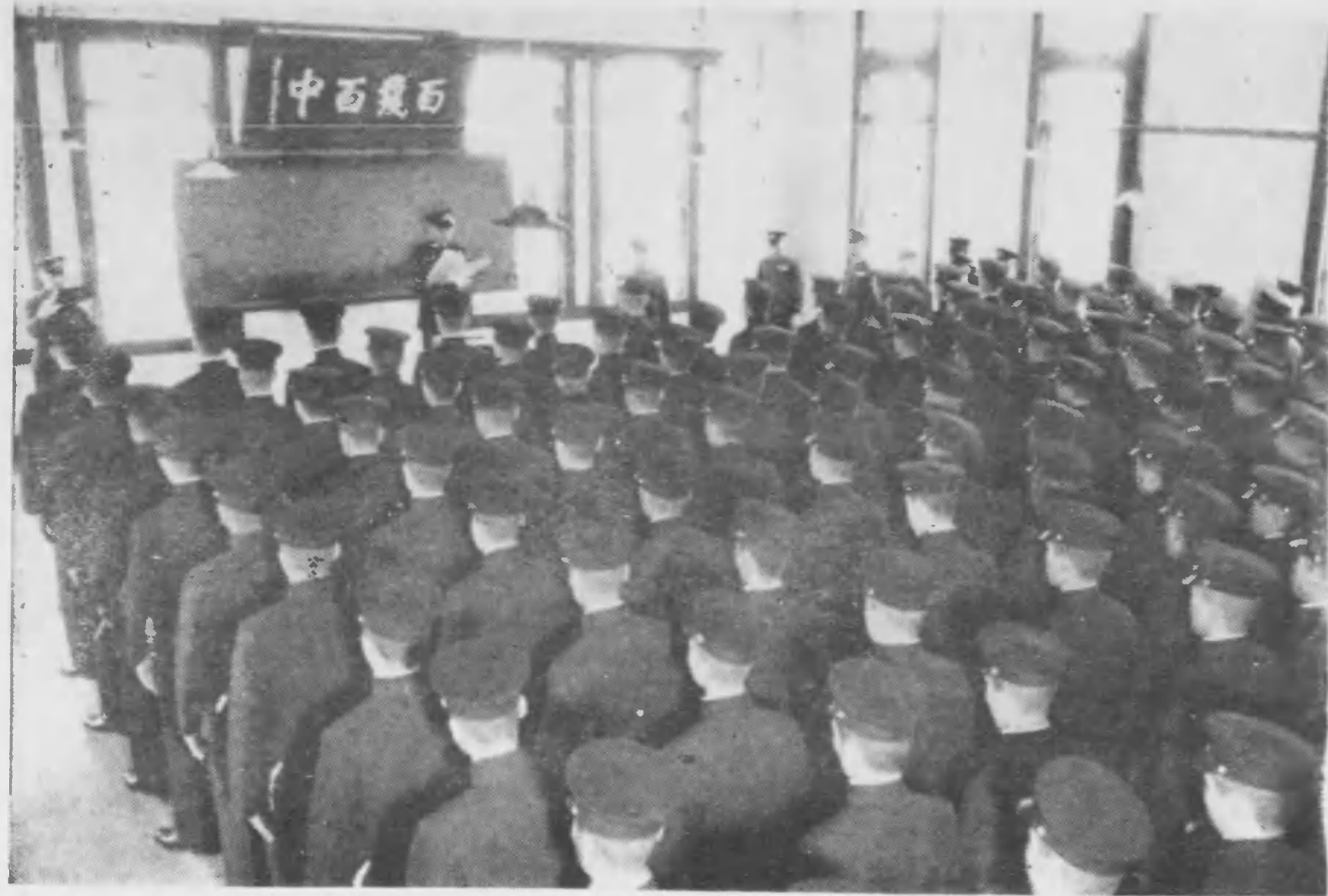
山原と魚雷林の海を乗切り、勝利の軍需資材をす
つしりと積込んで輸送船は進む。勝敗の鍵たる船を動
かす船員、殊に高級船員は多くは、高等商船學校で養
成された海軍豫備將校であつて、いはば商船士官とし
て決戦の海洋第一線に闘つてゐるのである

東京、神戸、清水の三高等商船學校は、いづれも専
門學校令に基づいてゐるもの、生徒は入校と同時に
海軍兵籍に編入されて海軍豫備生徒となり、江田島を
總はせる海軍式の教育を受ける。南太平洋の海戦から
歸つたばかりで元軍一杯の日々は、た上官や下上官
が、心魂を傾けて、學校即戦場の精神を生徒に叩きこ
む。二年生の座學課程と全員寄宿の生活によつて、
生徒は不屈の精神力、逞しい體力、そして航海に必要
な學識技能を修めて卒業する。さらに航海科は大成丸
などの練習船に乗組んで六ヶ月の洋上訓練を、機四科
は工場實習を、それを行つてから、ともに海軍砲術學
校に軍事學を學び、修了とともに海軍豫備員たる海軍
少尉に任ぜられる

入校には商船士官として、出でては海軍士官として、
大洋を晴れの舞臺に、戦場に、海國男子の本領を發揮
するときは今だ。東京、神戸、清水の三高等商船學校で
は、十一月二十日締切で君たちを呼んでゐる。採用の
人員は航海科、機四科ともに八百五十名づつで、志望
の學校を選択することは出来ないが、採用された者は
適當に三校に配分される。授業料は徴収しない。生徒
は校内に居住するほか、食費、教科書および被服費の
一部は支給される

志願者の資格は、大正十三年四月二日から昭和三年四月一
日までに出生した者、中學校第四學年を終了した者、甲種
實業學校を卒業した者（昭和十九年三月終了した者、甲種
の者を含む）専修を合格した者に限る。試験地、身體検査見
察等、そのほかの事項は、東京高等商船學校、東京商船會社
中島町、神戸高等商船學校、兵庫商船會社本町、清水
高等商船學校清水市本町、各學校の事務室、または各學校一同
合せられたい四號じし封入

試験のときは即ち直前に試験科目を知らせる。志望でも
して一人前の男子としてたしかなるの士を求められ



大東亞戦争日誌

十月

十五日 ●帝國海軍航空部隊は十月十五日朝ニキーン島アヲ海軍在泊中の艦隊を襲撃し、反撃される敵機約百機以上を撃墜し、本艦隊において一、敵に與へたる損害 輸送船 大型四隻撃沈 中型一隻撃沈 飛行機 十四機以上撃墜

十六日 ●我が方の損害飛行機自隊未歸機計十五機

十九日 ●帝國陸軍航空部隊は在支航空勢力、特に米空軍基地を攻撃すると共に敵軍市施設、船隻等を襲撃し、或は米空軍の艦隊を襲撃し、随所にその轟動空襲を伴つて、七月下旬より十月下旬までの綜合戦果次の如し

一、敵に與へたる損害 飛行機撃墜百二十機 艦艇撃沈四隻 船隻撃沈五隻 砲台撃沈一七箇所 延五十三回 船隻撃沈一七隻 艦艇撃沈一隻 飛行機自隊四十九機

二、我が方の損害 飛行機自隊四十九機

師長の不慮する軍人勲章を授けられた生徒は、全員水漬く屍となりて敵を撃滅せんとした

二十日 ●ニューギニア島方面その後の戦況次の如し

一、フィニンハーゲン附近の我が部隊は同地北方地区に上陸せる敵を攻撃中なりしが、我が連次兵力を增加し、十月十六日以降戦況は漸く変化しつゝあり

二、サラモアおよびラエ附近にて勇戦中なり我が部隊は敵に大なる損害を與へたる後、九月下旬より連次轉進を開始し、十月中旬ラエ北方地区に集結を完了せり。右期間敵に與へたる損害推定一万二千以上にして、我が方の損害現在までに判明せるもの戦死約三千名なり。またマダン附近の我が部隊はラム河上流右岸地区に進出せる敵と十月上旬以來交戦中なり

三、我が陸軍航空部隊は地上部隊の戦況に協力すると共に敵航空基地に進攻し、或は敵艦隊を襲撃し、または米空軍の艦隊を襲撃する等、連日艦隊なる戦況を繼續中にして、九月一日以降現在までの主要なる戦果次の如し

一、敵に與へたる損害 飛行機撃墜百六十四機 艦艇撃沈四隻 船隻撃沈一五隻 砲台撃沈一七箇所 延五十三回 船隻撃沈一七隻 艦艇撃沈一隻 飛行機自隊四十九機

二、我が方の損害 飛行機自隊四十九機



支給される軍服等は、寸法に合せてすべて整然と揃へられ、生徒は、生計を助けるために、校服を着たの事業服にきかへた生徒は、箱の裏面を感嘆にふるふる手でそつとならるる...

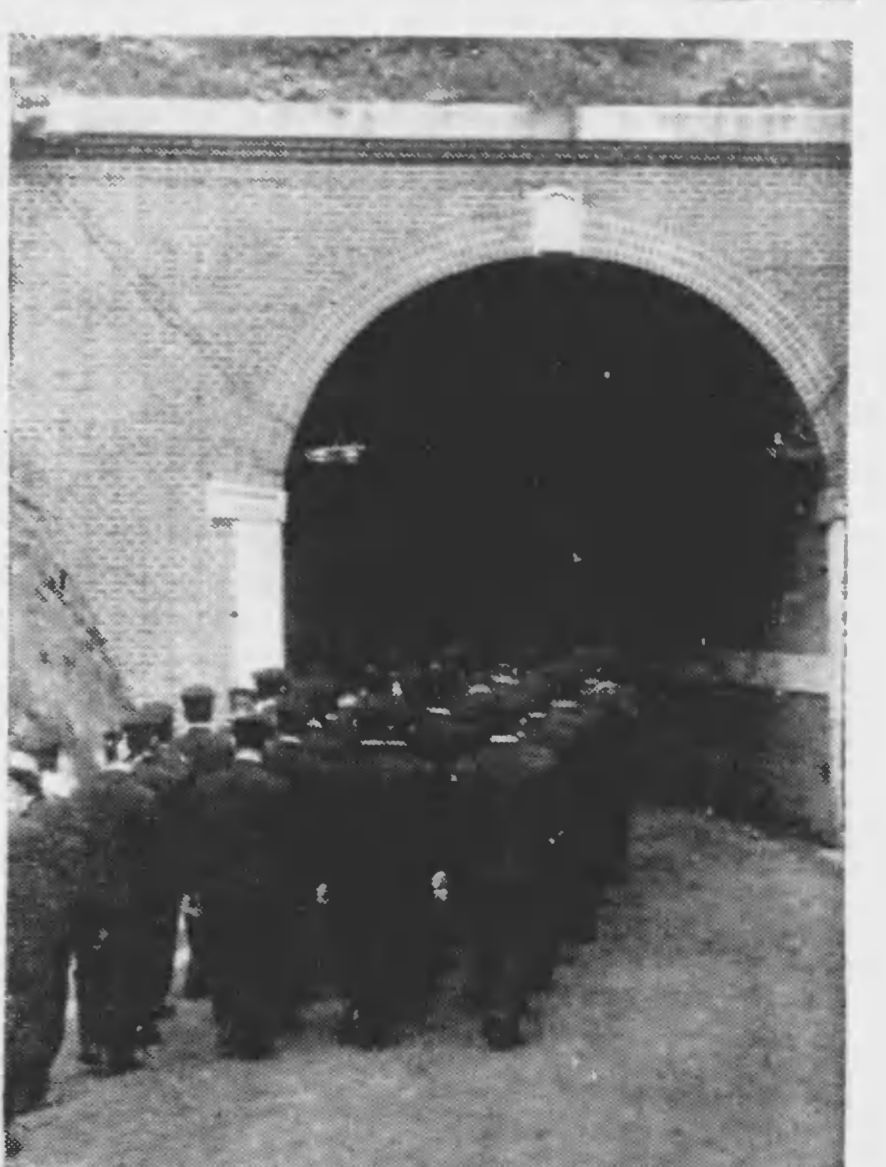


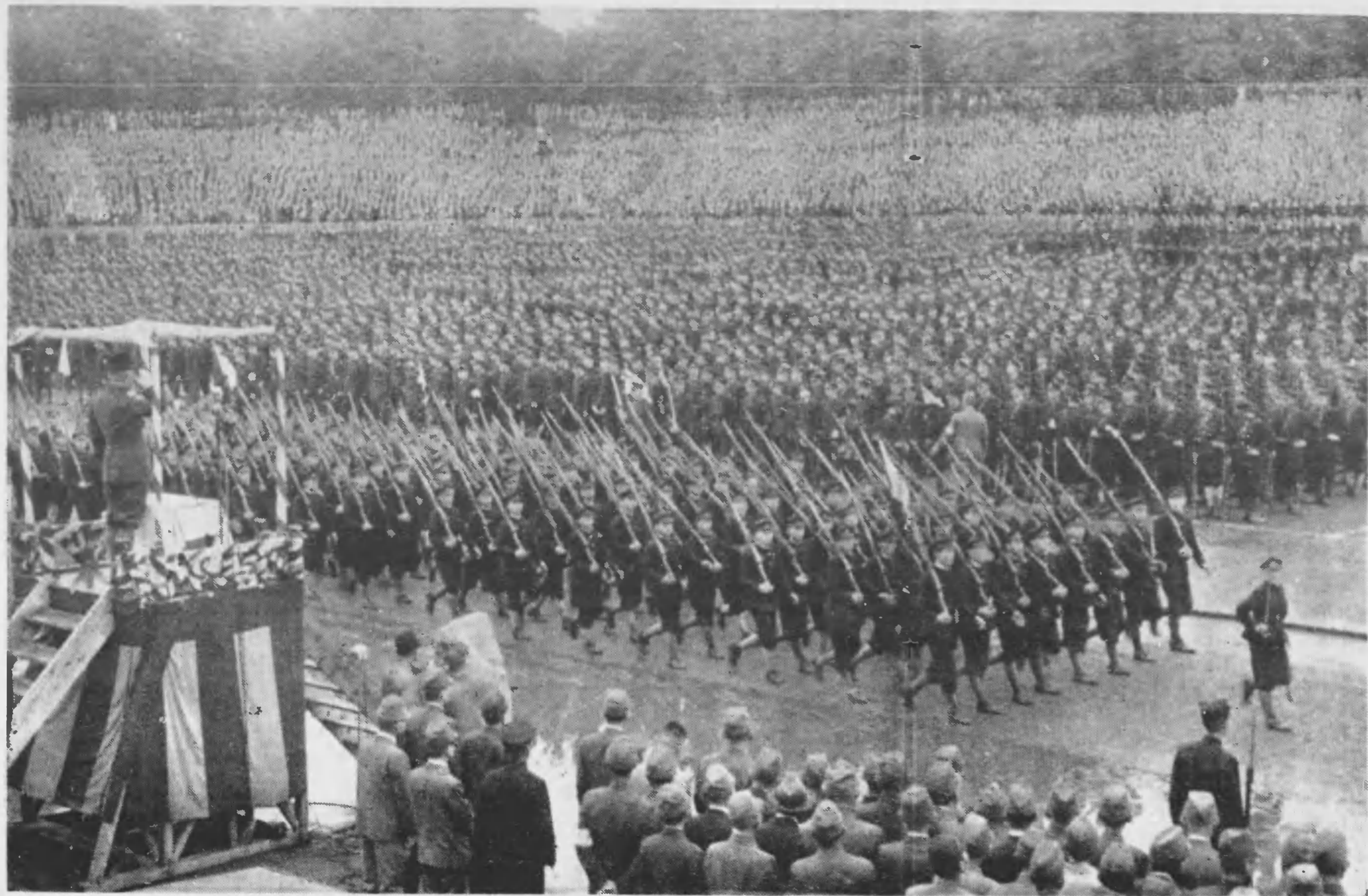
海軍少尉の譽れ高き海軍砲術學校

東京高等商船學校から海軍砲術學校



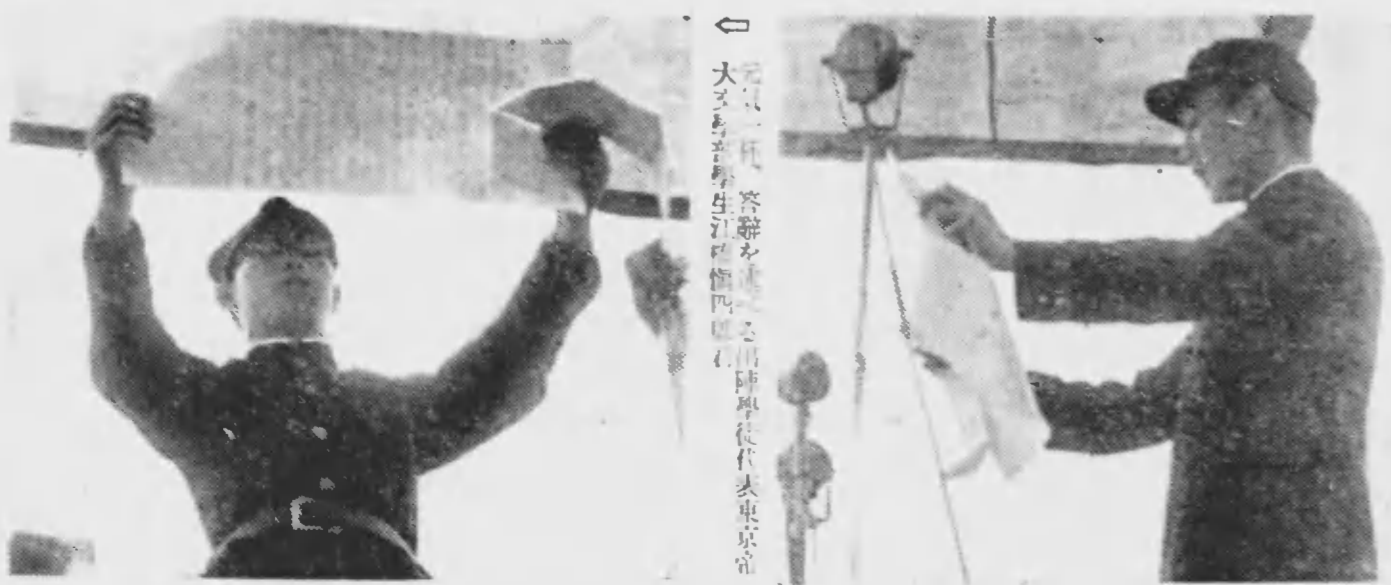
入校してゆく高等商船卒業生の歩調は、ヤク／＼とたまはして力強い、ハミ／＼と育つて上つた商船學校の教官は、教へ子の晴れの前途に感嘆ひとしほだ





出征の感奮を胸に
出陣學徒壯行會

出陣學徒を送る右から
文部大臣、東條内閣総理大臣、
陸軍大臣、海軍大臣



出陣學徒を送る女學生の歡呼
米英軍艦の歩式空々、出陣學徒が分列行進と
演習の陣営を

十月二十一日文部省主催の「出陣學徒壯行會」が秋風漸く冷い明治神宮外苑競技場に盛況大に開催された。可成り、かつて今日の日本の進歩がこの日を期して技を練り、武を磨いた聖域、中國學徒の今日よりは顧みなき至誠の熱情と、これを送る國民の赤誠は逞しい奔流をなして流り溢れ、「壯行の祭典」は世紀の感服の中に終結したのである。

それ／＼は、東條總理の壯行の辭「われ／＼の祖先たるが子の如くに當り、一家一門打掃して我が志の如きと同様の心持をもつて、わが／＼一國國民は心から敬意と感謝をもつて諸君の壯志を祝ひ送らんとするものである」を、さらに繰返さう。そして、戦局いよいよ苛烈な今日、青年學徒諸君が「昭和の勲代」に於ける青年學徒の不逞なき意氣と必勝の信念とをもつて祖國の重責をなすし、後世に永く日本の光輝ある傳説を築きしべし」ことを心から期待してやまない。

— 東條代表 陸軍大臣 學生代表 津田君の演説 —

元以「壯行會」を主催する出陣學徒代表東京市大文部省學生生活部四郎氏



「このまゝ詰りましては頭で手も折れよと扱って下さった村の方々に、どうして堂々と対面できませうか。必ず増産期間を立派に奉公して晴れの凱旋をしよう、一同固く誓ひ合いました。合津魂のこもつたなよ竹の婦人の赤心は、今なほ私共の五體に躍動してをります。どうか、弱き身ながら至誠にもえる合津女性の切ない願いを遂行させて下さいませ」

これは去る三月、勤務奉仕を豫定より一ヶ月延ばして石炭増産期間に協力したいと、血書で申出た福島縣河沼郡堂島村女子勤務報國隊一同の手紙の一節です。

石炭がなければ、飛行機も兵器も造れません。軍需工業の原動力である石炭の増産に必死な、こゝ古河安積好開職業所には、昨年十二月から女子勤務報國隊が働いてゐます。白い手を汚つた良家の子女が三交代で二十四時間、日に夜をついで安眠にまみれたが、増産に奮闘してゐるこれらの女子隊員には、晴日もすつかり感じ入つて、「女子報國隊に負けた」を宣言書としたほどです。

例日作業前に一時間の授業もあるほか、休日には生花、裁縫等を教へ、女子としての修業を...

兼行作業 敢然晝夜 良家の女子も

古河炭好開職業所兼業所
女子勤務報國隊



二月のこと、古河炭好開職業所から隊員が、一、職場を離れ、二、家庭を離れ、三、故郷を離れ、四、戦場を離れ、五、死を覚悟して、六、前線に赴いた。

二、三、四、五、六、の四時半まで働き、七、八、九、十、十一、十二、の四時半まで働き、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、の四時半まで働き、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、の四時半まで働き、三十一、の四時半まで働き、一月間、この生活を繰り返した。



情報局募集南方刺映書籍募集 入選発表

さきに情報局第三号において募集された南方刺映書籍は五月末日募集を終り、全応募作品三百七十一篇に、事務局事務局と兼ねて設置された審査委員五氏、を以て審査の結果、優良賞及び情報局奨励賞を受ける作品を得た。その中、佳作として選定された作品、左記の通り入選者を発表し、

情報局局長賞

評審者なし

一、佳作として 情報局長賞

評審者なし

二、佳作として 情報局長賞

評審者なし

三、佳作として 情報局長賞

評審者なし

四、佳作として 情報局長賞

評審者なし

五、佳作として 情報局長賞

評審者なし

六、佳作として 情報局長賞

評審者なし

七、佳作として 情報局長賞

評審者なし

八、佳作として 情報局長賞

評審者なし

九、佳作として 情報局長賞

評審者なし

十、佳作として 情報局長賞

評審者なし

勤労女性の健康管理を十分に

新島島長 谷野せつ

いよいよ女子の勤労が盛化されることになりましたが、女子は過當に働かすれば、男子よりも健康を害す得るものであることは、すでに各種の實驗によつて明らかです。しかし、職場の健康増進は、何といつても、まづ伊予女性の健康がその基礎となります。

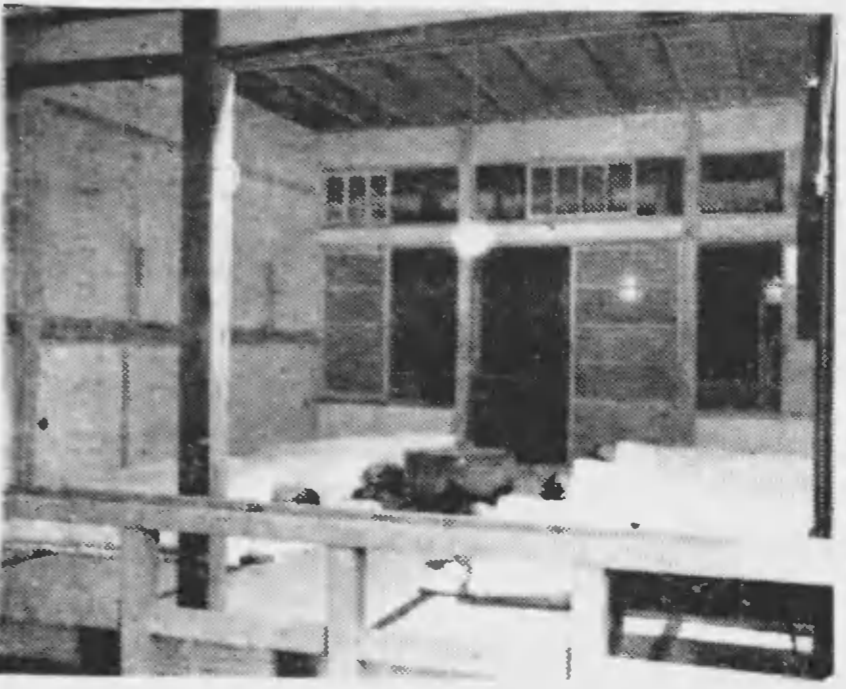
女子の健康管理を一言にしていへば、生活を健康的にすること——は明らかですが、これを具體的に申しますと、一般に職員は日光に不足がちになります。このためにあらゆる機会を利用して、僅かの時間でも病入をなくすのは、皆丈夫な體にするためツレック反動を檢査して、先づ結核を豫防する。昭和十四年より始められた結果、去年より結核は減少し、更にそのころこんど娘を工場へ就業させることによつて



日に當る方がよいので、手近な所からいへば、體操が一番行ひやすいと考へられます。體操は定期的に、また組織的に全従業員が一丸となつて行ふ方がよく、この結果、精神は鍛錬されます。また女子によつて一歩歩いて、作業に大切な共同動作と團體的な訓練にもなります。このほか、一層積極的な體操では、比較的運動量の多い體操によつて、作業の欠陥を多量に、矯正するやうに努めます。例へば、立つたまゝ、作業する女子には呼吸運動を妨げる等の方法です。また體操のほかには、繩とで、羽織のき等の自由な遊戯による気分転換も、運動會や遠足も大いに獎勵してほしいものです。



以上基礎的な健康管理のほかに、衣についで、これからは寒さに向ふにつけて、體を冷やさない。レントゲン検査の結果、保護を要する虚弱の女子を工場内に結核菌が入り、作業をする。農具や牧畜用具も、健康をとりかへす。



健康管理は、大に施設や資料が要するものではないと考へて、かまじ夫前意をこらさず努力がまれば出来ることです。殊に發育期に達する女子が女子工場の半は占めて現在では、健康管理は、女子勤勞者がやがて母となることを思へば重大な問題です。いは、お國から女子を預つてゐるこゝろ、いふべき工場の積極的な、また眞實な管理を期待するとともに、世の女子が働きて、鍛へて精神に徹して挺身されんことを期してやみません。

働く女性をまづ健康に

日清紡績針崎工場



農村に育つた女子にとつて山羊や羊を飼ふことは故郷に歸つたやうな気分を回復する。しかもこの山羊乳は虚弱女子の飲料にとられてゐる。榮しく飲むながら日光の不足を補ふために太陽燈を浴びる。保健師の親切な指導に虚弱女子も立ち振る健康體だ。



★ 室内作業の有用針織に、まづ海の青魚と新鮮野菜の必要を學んで、栄養知識を深め

★ 海中島出の高船土官は行く



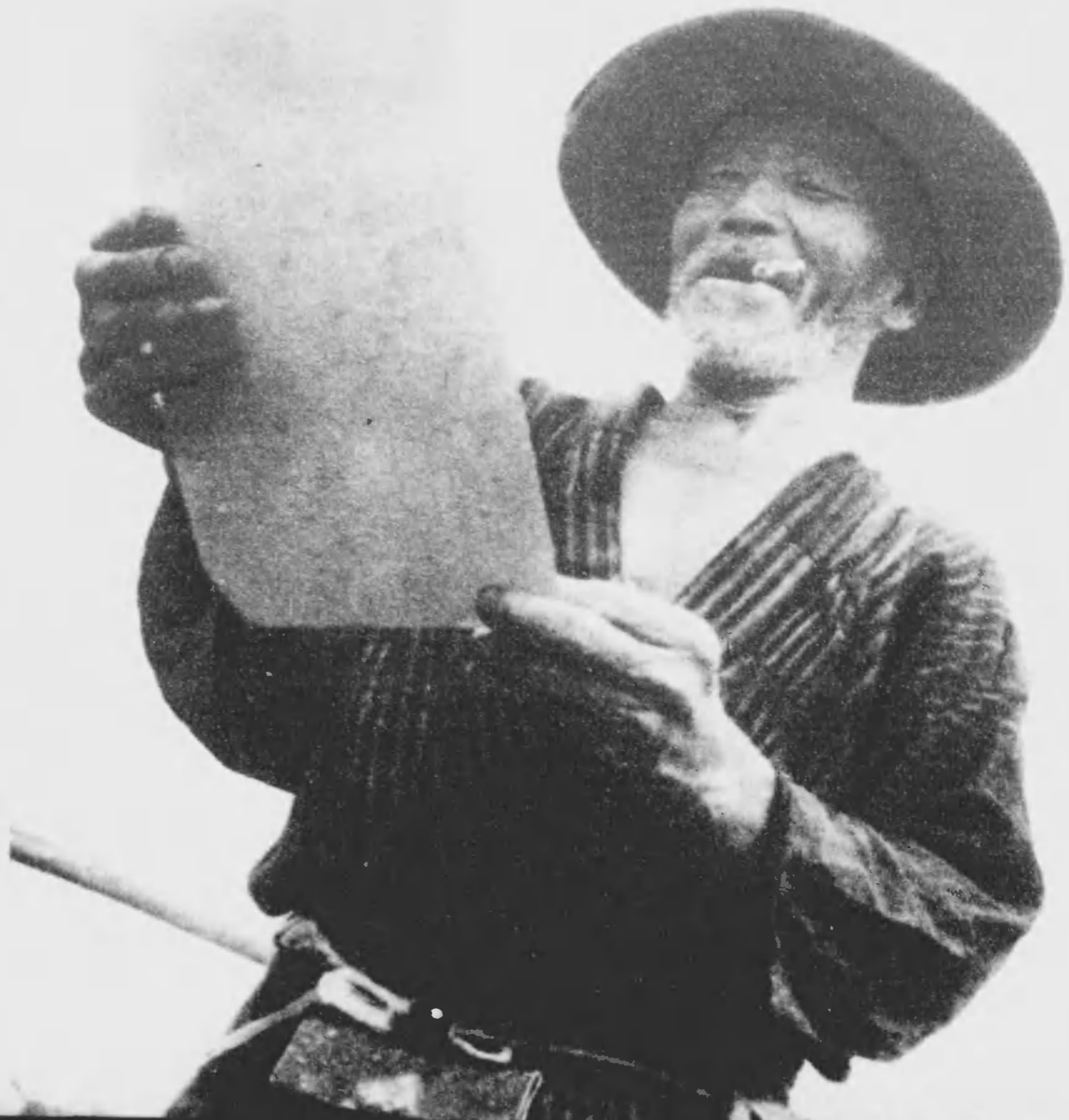


似てんべ、よく。職員のあんちゃんに贈ったよ。こんな別荘なりましたわー

今日は稲こぎの工合もえらく調子がええだ。勤務生士のみなさん達、これに感謝のまかせさん達までしてくれただけだんべえ、ハハハ、……



稲作の苦勞さ



稲作の苦勞さ

「稲作の苦勞さ」…… 稲作の苦勞さが、稲作の苦勞さ

△おちんさん、おらの稲うまく
かけ、かい
まつ、と力強い筆先が
躍動する毎に、明るく熱ん
た自分の似顔が見てる間に
紙上に生れ出る。わつと、
爆笑。そして似顔繪にじ
む慰問と感謝に、しみん
とした感激が浮かぶ。職員の
職、来年も頑張るぞ。漢
基家の農村慰問行が生んだ
朗らかな風景である
大政翼賛会では二十三日
新嘗祭を中心に全国一斉に
新穀感謝行事を行ふが、そ
の先觸れとして、さる十月
十八日から三日間、日本漢
基会公會員二十名を東京都
近隣の農村に派遣、各種の
方法で食糧増産の戦士を十
分に慰問した。なほ會員の
酒脱な格好になつた騎乗農
村の姿はこれと一般に示
示、新穀感謝、食糧増産の
趣旨徹底に資することにな
つてゐる
△これ、い、たかね。と、これ
に忙しいひと、金を黄金の放
ちつ田圃のくらに和やかな観
しさが小春日のやらに暖かに
あてくる。おちんさんたち
おかげで候選おしいお米を
たべられます
△ワハハ、ワハハ、ワハハ、ワハハ
△増産の肩のこりがいつべんで
よつ飛んでしまふ楽しい時
が秋空に輝く。おりのよ





増産のために
 水郷大和の近郊に
 め、黄金の穂が
 んにも水に浸る
 粒のお米もた
 ちはお米をか
 て冷たい水に
 まてが浸るま
 て稲刈です

〇知りかつた利は水分
 と水を除くため
 水にならなくて
 に乾かします
 船の下からも稲刈で



本誌掲載の寫眞を無料貸出
 情報局では今回『寫眞週報』に掲載されて
 る寫眞の、雑誌、出版物等への無料貸出制
 を実施しましたから、御希望の向きは
 東京都町田有楽町ノ二毎日新聞二階財團
 法人寫眞協會に用途を明らかにして御相談
 さい
 なは掲載物を一部、情報局週報に御送附下
 さい

〇土地なきを憂へず
 東京部 坂本芳二

狭い庭に青い芽が出て、やがて屋根の上までひろが
 つてゆき、南瓜が七つもなつたのです。土地がないので
 土地がないのはひまなすにせよ、土地をこの事からか
 ましたくないのではなすにせよ、土地をこの事からか
 想外の収穫のひまなすにせよ、土地をこの事からか
 は秋みでみまなすにせよ、土地をこの事からか
 日に乾かして保存しておけばよいのでせう



★表紙
 海軍士官として、また造船
 士官として決戦の海を征く日
 に備へ、こゝ東京高等商船學
 校では、航海科生徒が模型の
 船で船舶の運航を學んでゐ
 る。出陣入港の衝突防か
 ら、護送隊の運航までを學
 ぶ生徒は、開ふ汽笛を響ける
 決意に燃えてゐる。寫眞は廣
 徳船渠の運航法を模型で學ぶ
 生徒たち



大和魂 舟の鬼への好意の
 大和魂



この一冊が、この
 復讐が、あの情ら
 しい舟の鬼どもを
 運船してこれと
 思へば、附へて
 國の力になるとい
 ふありがたき貯蓄
 たまはげなべし

照津岩

産め殖やせ
 空陸軍に大和魂
 池田永一治
 「お湯がこぼれようか、風呂桶の
 底が抜けようか、おまはらないよ、
 みんな丈夫に育つんだよ」

〇屠れ米英の惡鬼ども
 眼部 亮英
 おれ、の心の中にも、魂は一人づつあ
 るはず。生意氣な米鬼、英鬼、一泡吹か
 せてやらうぜやない。

増産の頭歌高らかにある。一紙の土起しも
 一本の草取りもせずにこの御飯を喰ける有難
 さ、もつたいなさ。何はななくとも、結構か
 ね、お前「米鬼ね、お母さん」

下川 勝明

よくあたる

弾丸切手

一枚二円で一等千円

第 十 八 回 賣 出 十 月 二 日 十 五 日

抽 籤 十 月 二 十 日

當 籤 八 枚 二 付 一 枚 割 合

抽籤の済んだ切手は
五枚以上とめ郵便局へ
お出しの上特別据置貯金
證と引換へ下さい

寫眞週報
(無断複製)

昭和十八年十一月

日印刷發行

編輯者

情報局

東京市神田區

水田町

印刷者

内閣印刷局

東京市神田區

大塚町

所 達 申

全國各地官報
販賣所
新聞販賣店
寫眞材料店

定 價
一部十錢
(送料一錢)
外國郵送は依
る地域は送料
共一部十九錢
▲特大號の場合
其の都度御達
全より差額を申
受けます

本誌掲載の寫眞中、據
を特名或は提供名
の財団法人寫眞協
の製によるもので
の海軍省承認第五
製は海軍省承認第
四號です

本誌を回覧に
本誌を購置や購場
て回覧するなど、出
來るだけ有効に御利
用下さい
前線慰問にも
またお読みになつた
ら本誌を前線慰問に
送りませう。送料は
内地と同様で封封あ
るは開封にして第
三種と明記すれば
一部一錢です

内閣印刷局印刷發行

寫眞週報 昭和十八年十一月二日 抽籤の済んだ切手は五枚以上とめ郵便局へお出しの上特別据置貯金證と引換へ下さい